

南あわじ市 平成 19 年度 事務事業評価シート  新規  継続  
( 管理 運営用 )

## I 基本事項

		整理番号	1444
事業名	南淡 B & G 海洋センター艇庫管理運営費		予算科目
担当部課名	教育部	生涯学習文化振興課	会計
電話	0799 - 37 - 3020		目
		目	一般会計・1
		目	教育費・10款
		目	保健体育費・6項
		目	体育施設費・3目
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱	人づくり 知恵あふれ 郷土愛が満ちるまちづくり	
	まちづくりの目標	一人ひとりが明日を拓くリーダー〔教育〕	
	施策目標	子ども達や市民が、南あわじ市の未来を切り拓くための、多様な能力を身につける機会を提供する	

## II Plan (計画、事業内容、事業背景)

施設概要	設置目的	対象(誰を・どのような状況の人を) 海洋性レクリエーション(カヌー、OPヨット、ローボート等)を体験し、技術向上等したい人 意図(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入) 海洋性レクリエーションを通じて自然に接することにより青少年の健全な育成、マリンスポーツの普及振興に貢献する。		
	施設内容	(敷地面積、延床面積、構造、収容人数、駐車台数、付属施設など)		
		施設名称	南あわじ市南淡 B & G 海洋センター艇庫	
		所在地	南あわじ市阿万塩屋町 2 6 2 4 番地 1 6	
		設置年度	昭和 53 年度	
	稼動状況	敷地面積： 保有艇数：カヌー 27 艇、OPヨット 10 艇、12フィートヨット 2 艇、カッター 2 艇、ペアカヌー 2 艇、ローボート 4 艇、ダブルスカル 2 艇、セールボード 4 艇、救助艇 1 艇。		
		(施設の利用状況、稼動状況) B & G財団のアドバンストインストラクター研修を受講し、資格を得ている市職員(現：生涯体育係 2 名、資格なし 1 名で対応)が参加者に対して海洋スポーツ(カヌー、OPヨット、ローボート等)の体験等を指導している。海洋スポーツ教室 6 月～9 月 28 回開催 約 1000 名の参加。修学旅行、自然体験活動、1 日体験教室、市生涯学習事業等を受け入れ実施。活動水域及び海岸のごみ・空き缶清掃活動。		
	施設設置根拠法令等	南あわじ市スポーツセンター条例		
	開館時間	午前 9 時 30 分 ~ 午後 5 時 00 分		
	休館日	<input checked="" type="checkbox"/> 平日 月 曜日 <input type="checkbox"/> 土曜日 <input type="checkbox"/> 日曜日 <input type="checkbox"/> 祝祭日 (その他)		
運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 一部委託			
		委託団体		
		委託内容		

## Ⅲ Do (管理状況、使用料、投入資源等)

管理手法	(委託業種、作業内容、設備・備品内容、修繕内容など)									
	海洋スポーツ教室を指導している職員が直接管理しており、施設利用があった場合のみ開館している。屋外トイレの清掃は、シルバーと委託契約をしている。カヌー27艇、OPヨット10艇、12フィートヨット2艇、カッター2艇、ペアカヌー2艇、ローボート4艇、ダブルスカル2艇、セールボード4艇、救助艇1艇。									
	施設管理従事職員	市職員	2	人	委託団体職員	人	合計	2	人	
使用料等	受益者負担について(料金体系、根拠法令など)									
	【南あわじ市スポーツセンター条例第8条】 1人あたり2時間～3時間単位300円 市外利用者は450円50%加算									
	減免措置(減免内容、根拠法令など)									
	【南あわじ市スポーツセンター条例第8条第2項】 教育委員会が必要があると認めるときは、これを減額し、又は免除することができる。									
資源配分 インプット			平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度				
		直接事業費	(千円)	848	944	529	600			
		施設維持管理費		848	944	529	600			
		財源	(千円)							
		国								
		県								
		使用料		118	106	108	110			
		その他								
		一般財源[A]		730	838	421	490			
		人件費(正規職員)[B]	(千円)	1,167	1,435	1,686	1,686			
		平均人件費(1日当り)		30.7	29.9	30.1	30.1			
		事業量1(事業に要した日数)		19	24	28	28			
		事業量2(事業に要した人数)		2	2	2	2			
	年間経費([A]+[B])		1,897	2,273	2,107	2,176				
	経費に関する 補足説明									

## IV Check (事業の自己評価・一次評価)

		単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
設置目的達成度	成果指標目標値	人	900	900	950	950
	成果指標実績値	人	723	852	1,069	
	目標達成度	%	80.3	94.7	112.5	-
	成果指標	参加人数	単位	人		
	指標算出の考え方	利用者が多いことは、青少年の健全な育成、マリンスポーツの普及振興に貢献できていると考えられる。				
(達成度の分析、問題点・課題などを記入。)						自己評価 (5点評価) <b>3</b>
<p>予約を受けての海洋スポーツ教室の指導を行なっているので、そんなに利用人数の変化はないが、今後も利用人数を増やしていきたい。</p> <p>B &amp; G財団のセンター評価も「特A」となり、全国B &amp; G海洋センターの模範となるべく、施設を拠点とした活動を行なっていきたい。平成19年度に艇庫を改修工事し、また舟艇の購入等により、一層の利用促進を図れると考えられる。特に海と触れる経験の少ない子どもたちに体験活動を普及していきたい。</p>						
効率性		単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
	年間経費	千円	1,897	2,273	2,107	2,176
	年間利用者数	人	723	852	1,069	
	利用者1人当りコスト	千円	2.6	2.7	2.0	-
	延床面積	m <sup>2</sup>	450	450	450	450
	面積1m <sup>2</sup> 当りコスト	千円	4.2	5.1	4.7	4.8
(施設の効率性・コストの分析、問題点・課題などを記入。)						自己評価 (5点評価) <b>3</b>
<p>指導員が市の一般行政職員（生涯体育係）であるため、海洋スポーツ体験教室等を開催するには、その期間に他教委事業と重なるため、動きが取れない状況になる。平成18年度に設立した指導者を軸に人材を活用し効率よく開催できる体制づくりが必要である。またレジャー施設としての価値もあることから、今後、幅広い利用者を求めてPR活動を実施していきたい。</p>						
必要性	行政関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 高	<input checked="" type="checkbox"/> 中	<input type="checkbox"/> 低		
	(公共が設置すべきか、市民ニーズはあるかなどを分析、問題点・課題などを記入。)					
<p>昨今、青少年が起こす事件事故等が多数発生している。青少年の人格形成の面において、自然とふれあう機会の減少、友達と外で遊ぶことが機会が少なくなっているのが原因のひとつと考えられる。海洋性レクリエーション活動は、友達と交流を深めながら、自然と直接ふれあい、自然の大切さ、偉大さ、厳しさ等を感じることでできる機会であり、青少年の健全育成のためにも必要があると思われる。</p>						
総合評価	自己評価をふまえた現状分析					
	<p>青少年の健全育成の点から施設の有意義性は大きいと思うが、現状のように市職員が他の業務を兼務しながらでは開催日数にも限界があり、利用機会を増し、利用者人数を拡大させるには無理が生じる。活動を広げようと指導者を設立したが、会のメンバーはほとんどが市職員であり、年齢も高くなっているため、研修等により若い人の新規加入を促進し、効率よく事業を展開していく必要がある。</p> <p>また舟艇機材が老朽化しているため、今後も、継続して活動していくためには、毎年度少しでも修繕や一部買い替えをしていく必要がある。</p>					
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>評価グラフ</p> </div>						

## V Action&amp;Plan (改善の内容及び次年度以降の計画)

	平成20年度にできる改善・改革	平成21年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性及び具体的な改善案	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 現状維持
	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し (下記の見直し内容にチェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し (下記の見直し内容にチェック)
	<input checked="" type="checkbox"/> 人員配置の見直し <input checked="" type="checkbox"/> イベント等の見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 人員配置の見直し <input checked="" type="checkbox"/> イベント等の見直し
	<input type="checkbox"/> 開館時間、休日等の見直し <input checked="" type="checkbox"/> 使用料の見直し	<input type="checkbox"/> 開館時間、休日等の見直し <input checked="" type="checkbox"/> 使用料の見直し
	<input type="checkbox"/> 指定管理者委託 <input type="checkbox"/> 民間譲渡	<input type="checkbox"/> 指定管理者委託 <input type="checkbox"/> 民間譲渡
	<input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> その他
	市内小学校等のプールを活用したカヌー等の出前教室や学校の総合学習の時間やクラブ活動等を利用した体験教室を開催していくことで、広く周知させ、気軽に利用できることをPRしていく。また指導者を育成するため、高校生から市職員・民間企業の新人研修を備えた研修施設として施設利用してもらう。人材バンクとして登録し今後の艇庫活動の指導者として活用。海洋スポーツ以外でも海洋環境問題等を学習するため艇庫を活用。老朽化した舟艇の買い替え。競技人口が増えてくれば、市内カヌー等大会の開催を目指す。施設活用に伴う観光客招致の手段としても活用していきたい。	体験活動的な面と、指導者が養成されてくれば、スポーツクラブ化し、全国大会等の出場に向けて選手を育成していく競技性のある面と2面性をもった活動が展開できる。
見直しにより見直しの場合記入される効果	カヌー等の海洋性レクリエーションが市民へ理解され、新たな生涯スポーツとして定着される。観光資源としての活用をしていきたい。	市民への理解は、南あわじ市生涯スポーツの文化として島内外へのPRとなり、利用客が呼び寄せられる手段として活用される。
(現状維持の場合も記入)	仮に施設を廃止した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面)	
	<p>プラス面：施設の維持管理費等の経費の削減。B &amp; G財団との無償譲渡契約の職員配置義務がなくなる。</p> <p>マイナス面：B &amp; G財団と南あわじ市(旧南淡町)との無償譲渡契約違反。海洋性レクリエーション事業の停滞。</p>	
(現状維持の場合も記入)	仮に外部委託した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面)	
	<p>プラス面：施設維持管理費の経費節減。</p> <p>マイナス面：使用料の増額。B &amp; G財団との無償譲渡契約違反(常勤職員1名以上配置義務)。ただしB &amp; G財団との要協議であるが、委託先が無償譲渡契約を遵守する形であれば外部委託は可能である。AD研修への参加等</p>	
他の類似施設を持つ自治体の動向等	指定管理者制度を行なっている市町村有り。	